

令和4年7月1日



国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター東北育種場

大仙市指定天然記念物「姥杉」の後継樹が里帰り

うばすぎ

ー林木遺伝子銀行110番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

りんぼく

ポイント

国指定史跡「^{ほったのさくあと}払田柵跡」に含まれる^{しんざん}真山頂上に立つ大仙市指定天然記念物「姥杉」(秋田県大仙市)の後継樹が、国立研究開発法人森林研究・整備機構 ^{うばすぎ}森林総合研究所林木育種センター^{りんぼく}東北育種場から里帰りします。

概要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター東北育種場(岩手県滝沢市)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行110番」を行っています。

今回は、^{たかなし}高梨神社から増殖の要請を受けた「姥杉」の後継樹として、さし木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

日時：令和4年7月6日(水) 13時00分

場所：秋田県大仙市払田字真山35番地(高梨神社境内)

問い合わせ先

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター東北育種場

事業責任者：遺伝資源管理課 課 長 久保田 権(くぼた ごん)

担当者： 収 集 管 理 係 織邊 俊爾(おりべ しゅんじ)

広報担当者：連 絡 調 整 課 連絡調整係長 濱本 光(はまもと ひかる)

Tel：019-688-4518 Fax：019-694-1715

メールアドレス：touhokuikusyu@ffpri.affrc.go.jp

※取材される方は、事前に上記連絡先にご連絡ください。

本資料は、秋田県政記者クラブ、岩手県政記者クラブに配布しています。



背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹を増殖し、里帰りをを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 320 件の要請があり、241 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 3 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

内容

今回里帰りするのは、国指定史跡「弘田柵跡」の指定地区内にあり、真山丘陵部に位置する高梨神社（大仙市指定有形文化財（建造物））境内にある大仙市指定天然記念物「姥杉」です。

「姥杉」は、推定樹齢 600 年、樹高が 25m、幹周りが 5.5m の大木で、昭和 55 年に大仙市の前身である仙北町の指定天然記念物に指定されました。また、江戸時代後期の紀行家である菅江真澄^{すがえますみ}の地誌「月の出羽路 仙北郡」には「真山の三本の大杉」として 3 本の杉が描かれており、「姥杉」はその 1 本であると言われています。

今回里帰りする苗木は、強風により「姥杉」の樹幹上部が欠損したことから、平成 27 年 10 月に所有者である高梨神社が林木遺伝子銀行 110 番へ申請し、これを受け東北育種場が平成 28 年 4 月に穂木の採取を行い、さし木を成功させ、後継樹として育成したものです。この後継樹は、さし木により増殖させたクローン苗木であることから、親木と同じ遺伝子を持っており、二代目の「姥杉」として成長することが期待されます。

図、表、写真等



「姥杉」の原木の写真



「姥杉」の枝をさし木して育てた後継樹